

## インゲン（露地抑制）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地抑制								○	—	○	-----	
主な作業						土壌消毒	土壌づくり	施肥	は種			収穫

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

夏季の高温期に播種を行う作型である。土壌・空気ともに高温多湿状態にあるため、立枯病に注意する。

#### 2 適応地域

平坦地域

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

生育温度が高温になるほど花芽分化数や開花数も増加する。高温30℃以上になると落花落さや等を起こす。低温については豆類の中では比較的強く気温13℃で生育を停止する。開花収穫数に影響を及ぼす気温は昼間18℃、夜間13℃である。

##### (2) 光

インゲンの光飽和点は、2～5万ルクスである。

##### (3) 土壌条件

排水良好で表土の深い肥沃な植壤土土壌で最も良い生育を示す。酸性に特に弱くPh6～7が適度である。土壌水分については乾湿の害が特にあり土壌水分が充分でないと開花数が減少し収量も非常に低くなる。開花期に乾燥が続くと結実に悪影響を及ぼす。逆に加湿状態では生育が悪くなり停水すると落葉を生じ収量は激減する。

連作障害の対応として新規圃場に作付をおこない有機物の積極的施用が必要である。

#### 4 施設装備

高温対策として寒冷紗の被覆をする場合がある。

#### 5 経営目標

(1) 収量 1 t / 10a

(2) 投下労働時間 1200時間

(3) 所得率 70%

(4) 経営規模 6a

(家族労働力2人の場合)

### 栽培技術

#### 1 品種

「ベストクroppキセラ」

60日で収穫できる中性丸莢種。葉は小さく、莢数多いため多収が望める。2番果の開花が早いため長期栽培向きである。花数が多く肥大が遅いため一斉収穫も可能である。莢離れは良く色は濃い。

「サマーキセラ」(雪印種苗)

ベストクroppキセラの特徴に準じる。夏季耐暑性のある品種である。播種適期は7月下旬から8月上旬までである。

#### 2 本圃準備

##### (1) 畦立て

本圃は土壌が肥沃で排水・保水性が良く耕土が深く日当たり良好な圃場を選定する。また連作障害対策のため、新規圃場に作付を行う。

1. 5m畦幅の高畦を作る。マルチは雑草防止と地温低下のために白黒ダブルマルチを利用する。マルチ被覆は地温の下がる夕方か早朝に行う。アブラムシ対策のために薬剤散布を行う。灌水チューブを設置し、マルチ被覆をする場合は土壌水分が適湿状態で行う。高温対策のために白寒冷紗を被覆する。

##### (2) 施肥

肥料は有機質肥料か緩効性肥料を用いる。根の酸素要求量が高い作物であるため深耕を必ず行い植物

由来の有機質資材（麦わらや落ち葉）を施用し通気性を高める。この作型はやや窒素成分を落とし追肥中心の施肥法とする。追肥は開花時から着果時期が1番肥料吸収が大きいいため開花前5日頃より行う。

施肥量 (kg / 10a)

	N	P	K	備考
基肥	13	20	13	
追肥	10	10	10	
全量	23	30	23	

### 3 播種

播種は畦幅1.5～2m、条間40cm、株間35cmとし1穴3粒播く。軽く覆土を行う。発芽までは極力かん水は控え、不足気味であれば敷きわらを植え穴にかぶせやや土を湿らせる程度で灌水を行う。

#### (1) 立枯病対策

①30cm以上の高畦を行う。②地温低下のために白黒またはシルバーマルチを利用する。③発芽後は加湿状態にしないようにし、移植苗をポリポットに用意しておく。④発芽後、高温の場合は寒冷紗をかけ30℃以下になるように日中遮光する。⑤種子3粒は、間隔を空けて播種する。

アブラムシ対策のため登録のある粒剤を植穴処理する。

### 4 播種後の管理

#### (1) 間引き

間引きは発芽後本葉2枚が展開した頃に1本に間引きする。倒伏防止のために土よせをおこなう。

30℃以上にならないよう寒冷紗等を使って工夫する。

#### (2) 灌水

灌水は生育初期は乾燥気味に管理を行う。開花期頃より土壌水分が不足の場合のみチューブで晴天日の午前中に行う。

#### (3) 誘引

誘引は必ず行い、光線の確保と養分の転流がスムーズに行われるようにする。

混み合う葉や病葉・老化葉は早めに摘葉を行い株の内部に日光を当てさせる。1度に多くの摘葉は草勢が低下するため行わない。

#### (4) 収穫

開花後14～20日の若莢(12～14cm)を中心に収穫する。こまめに収穫を行い株に負担がかからないようにする。